

鴨川少年少女合唱団卒団生へ

『時があなたを』 作詞：久根崎 克美

時は流れる 桜のつぼみが 少しずつ開くように
 風に踊ることない ベランダの洗濯物
 いつでも その瞬間でも 時は流れる
 今日の日に戻らないけれど
 勇気ある旅人に 目の前には何も見えない
 それでも いつかまた会える日に向かって
 君にも 私にも 時は流れる

時は流れる 白い木蓮が ほのかな香りのせて
 電線の向こうには 水色にかすんだ空
 明日も 同じ場所でも 時は流れる
 昨日の日には帰ることなく
 勇気ある旅人に 明日の日には何かが見える
 それでも 忘れられない日がある
 君にも 私にも 時は流れる

君のこと 私のこと あの日のこと
 時がどこへ流れても いつか帰れるこの場所へ

合唱団のみなさんへ
 これまで、皆さんの歌声に勇気
 をもらった人はたくさんいます。
 それは、鴨川だけでなく石巻、
 そして世界にまで広がっています。
 このメッセージは、17日(水)の
 手術のために入院している亀田
 病院で書いています。
 生きられるか、生きられないか、
 わからない手術です。
 皆さんに、これから生きていく
 上で伝えたい事は、他人と自分
 を比べず、自分に自信を持って
 歩いて行ってほしいということです。
 たくさんのことが皆さんの
 前に現れると思うけど【絶望
 と落胆の先には希望しかない】
 ことしの夏には、聖火トーチを
 必ず皆さんに届けます。
 待っていてください。

2021年2月14日 久根崎克美

【鴨川少年少女合唱団員】 ★は令和元年度・2年度団長

高3	★星場 未宇	渡邊 杏奈	吉野 快
高2	犬石 彩貴	佐久間大輝	庄司 由季
	川俣 快斗	廣田 美月	石川 舞菜
高1	吉野 爽	清水 直緒	川名 佑磨
中3	佐藤 皓月		
中2	渡邊 桃佳	泉 優樹	金野小優姫
中1	山田 莉乃	若杉 愛々	長谷川 駿
小6	吉田 文	猪込 莉子	山口 慧斗
小5	泉 菜月樹		
小4	若杉 望々	波々伯部まりあ	中川 仁乃
小3	笹澤 実莉	長谷川志歩	小2 波々伯部杏壽



と き 2021.4.11(日) 1:30pm 開場 2:00pm 開演
 ところ 鴨川青少年自然の家

主 催／鴨川少年少女合唱団

問合せ／TEL 04-7093-0041(鴨川少年少女合唱団事務局 高橋)

このコンサートは、『鴨川ライオンズクラブ』『鴨川ロータリークラブ』の皆様からの
 助成により開催しております。

～ 感 謝 ～

一年以上にわたるコロナ禍の中なかなか練習が叶わず、今日のコンサートも練習はほぼゼロに近い状況での開催となることで、とても迷いました。でも、卒団となる３人にどうしても楽しい時間と良い思い出を残したい！！との思いから開催にふみきりました。

本日、一緒の時間を過ごそうとお集まりいただいた団員を含む全ての皆様に感謝申し上げます。

高橋 史郎・和貴子

Program

指揮 高橋史郎 ピアノ 鈴木信太郎 泉 稔子(8)

- | | | | |
|----|-----------------------|-----------------------------|--------------|
| 1 | さんぽ | 作詞 中川李枝子 | 作曲 久石 譲 |
| | | 編曲 源田俊一郎 | |
| 2 | となりのトトロ | 作詞 宮崎 駿 | 作曲 久石 譲 |
| | | 編曲 源田俊一郎 | |
| 3 | 未来へ | 作詞・作曲 玉城千春 | |
| | (高3) 渡邊 杏奈 (中2) 渡邊 桃佳 | | |
| 4 | 浜千鳥 | 作詞 鹿島鳴秋 | 作曲 弘田龍太郎 |
| | (高3) 吉野 快 | | |
| 5 | むこうむこう | 作詞 三井ふたばこ | 作曲 中田喜直 |
| | (高3) 星場 未宇 | | |
| 6 | 少年時代 | 作詞 井上陽水 | 作曲 井上陽水・平井夏美 |
| 7 | ハナミズキ | 作詞 一青 窈 | 作曲 マシコタツロウ |
| 8 | 時があなたを | 作詞 久根崎克美 | 作曲 泉 稔子 |
| 10 | 正 解 | 作詞・作曲 野田洋次郎 | |
| 11 | 群 青 | 作詞 福島県南相馬市立小高中学校平成 24 年度卒業生 | |
| | | 作曲 小田美樹 編曲 信長貴富 | |
| 12 | ほらね、 | 作詞 いとうけいし | 作曲 まつしたこう |
| 13 | ふるさと | 作詞 高野辰之 | 作曲 岡野貞一 |

——卒団式——

怪獣のバラード 作詞 岡田富美子 作曲 東海林修

～卒団に寄せて～

高3 星場 未宇

今回のコロナウイルスにより、合唱や吹奏楽・舞台など多くの芸術系統の規制が厳しくなり、私たちが今年体験させていただける予定だったこと、毎年経験させていただいていること、歌を届けること、これらすべて、一度途絶えることとなってしまいました。そんな中でも、緊急事態宣言が出ていない短い期間ではありますが、距離を取りマスクをして歌うことができました。私たちにとって一つの節目である春のコンサートの練習をする期間も時間も短い中、本日開催していただけてとても嬉しいです。イベントがなくても歌いに集まってくれた団員達、多くを教えてくださいました先生方、私たちが小さい時から支えて下さった多くの保護者の皆様方、OB OG の方々、私たちがこの団を引っ張っていったのは短い間でしたが、本当にありがとうございました。私たちの代はこれで卒団となりますが、今後も対策を行いながら歌っていきたいと思います。



高3 渡邊 杏奈

コロナウイルスが私達の日常に入ってきてから、一年が経ちました。この状況は、合唱団で歌うことも 吹奏楽部で楽器を吹くことも『感染の恐れがある行為』としてしまいました。人に届けることが音楽の醍醐味であり、それを自粛しなければいけない日が来るとは 考えてもいませんでした。でも、変わらず歌うことは好きだし、皆と一緒に歌いたい気持ちはそのままでした。まだ、緊急事態を宣言されたりイベントに規制がかかっていたりと、コロナ禍以前には考えなかったようなことが 多々あります。その中でも、卒団というひとつの節目をいただけたことは、私達三人にとって本当に嬉しいことです。合唱団での経験がなければ、今の自分は なかったと思います。色々なことを教えてくださいました先生方。いつもサポートしてくれた家族。そして、ここまで支えてくださった 全ての人々に感謝を伝えたいです。



高3 吉野 快

僕は小学３年生のときに入団をしたので約８年もの間合唱団にいました。８年と聞いてとても長く感じるかもしれませんが僕にとってはとてもあっという間でした。入団した時のことは今でも覚えています。当時何もわからなかった僕に先生や先輩、僕より先に入団していた後輩(特に郁斗や大輝)が優しく教えてくれてとても嬉しかったです。本当にありがとうございます。それから数年が経ち、今度は自分が教える立場になってうまく行ったかわからないけど高学年として精一杯やれたと思います。そして２年間務めた副団長はあまりうまくみんなをまとめられなかったかもしれないけどみんな笑顔で過ごせていたので良かったです。この８年間僕を支えてくれた先生、先輩方、団員のみんなそして保護者の皆様、今まで本当にありがとうございました。

